

浄願寺だより

H29冬No.7

遠方にお住まいのご門徒さんから、定期的にお寺の近況を聞かせてほしい、とのご要望があり、このたび「浄願寺だより」としてお寺をとりまく身近な出来事を取りまとめお知らせしようと思います。夏冬二回の発行を予定しています。

平成二十九年一月二十二日発行

編集責任者

浄願寺住職 関 秀法

「数え年」

住職 新年のご挨拶

こうして穏やかな新年を皆さんとお迎えできますこと、本当にうれしく思います。

さて、日々めまぐるしく時代は変化して行きますが、お寺という場所は、何かしら少し古風なものを大切にしている所です。仏具のデザインも、もう何百年も変わっていませんし、今時、仕事着が和服なのは僧侶か板前さんぐらいでしょう。和ろうそくや、塗香(手に塗るお香)など、今はもうお寺でしか見る事の無くなった物もたくさんあります。そういった古めかしいものを、次代のために保存しておくことも、お寺の大切な役目の一つなのかも知れません。そのような、お寺に卡ろうじて残っているものの一つに、「数え年」があります。最近はどうもほとんど使う機会がありませんが、聞きますと昭和30年代ぐらいまでは、まだ一般的に使われていたそうですね。

お寺では今でも、人が生まれた時や、亡くなった時には、「満年齢」ではなく、「数え年」を使っています。「数え年」の数え方には、二つの約束事があります。一つには、「生まれたとき、すでに一歳である」ということ。二つには、「一月一日に、皆一斉に年をとる」ということです。

「生まれたとき、すでに一歳である」ということは、私たちがこの世に産声をあげる時、すでに母親のお腹の中で十月十日を過ぎしてから生まれて来るからです。「数え年」ではお母さんのお腹の中にいた時間を約一年と考えて、生まれた時にはすでに一歳になって生まれて来ます。

私たちは誰も自分の力でこの世に生れて来たのでは無いですね。父や母、多くの多くのご先祖様方のおかげを受けて、生まれさせていただいたこの命です。その命の重みを忘れぬために、昔の人は自分の年に母のお腹にいた一歳を足して、いつもそれを脊負って生きていたのです。

そして二つ目の、「一月一日に皆が一斉に一年をとる」ということです。これは、この世に生まれたからには、皆が一つの仲間として生きているという想いを大切にしていたからでしょう。

私たちは誰も一人で生きているわけではありません。お互いが支えあって生かしあって生きているものです。たとえばがみ合っている者同士でも、この世を生きるものという意味では一つの仲間です。「数え年」では、大人も子供も、男も女も、犬も猫も、山も川も、草も木も、皆一緒に元旦に一年をとる、皆とともに生きている事を確かめ合うことができました。そして、「おめでどう」とその感謝と喜びを伝え合ったのです。

「この世に生んでいただいた「恩」、皆とともに生きていることへの感謝」。「数え年」はその大切な思いを「年齢」という自分の人生から切っても切り離せないものに刻み込んで、私たちに教え続けてくれました。

しかしながら、戦後、日本人がその

ような深い精神文化を、合理主義や、「年齢は一歳でも若い方がいい」との理由から、あっさり捨ててしまったことは、実に残念な事だと思います。

お寺の仏事ごとには、いまだかろうじて「数え年」が生きています。どうぞ皆さんも仏事の際には、ご自分のお年にも、「ご恩」と「感謝」の一歳を足して、その重みとぬくもりを共に感じる時間になっていただけだと思います。 元旦

数え年

昔は

お正月に皆一斉に

一年をとるに

皆が一斉に

生きてゐることを

感じるために

本堂の縁側

修理しました！

お寺の本堂の周囲を囲む濡れ縁、厚さ五センチもある檨板です。硬く狂いの少ない材ですが、長年風雨にさらされ続ける場所ですので、板が反ったり、やせたりしてずいぶん隙間が開いてきました。足をひっかけて転倒の危険もありますので、今回、懇志により修理をしていただくことにしました。

板の間に埋め木をしていくのですが、一枚一枚、隙間の大きさや、反り方が違うので、腕利きの大工さんもさすがに悪戦苦闘していらっしやいました。でもそのおかげで、見事ぴつたりと隙間が埋まり、端正な姿が甦りました。防水には桐油と松脂を混ぜたものを何度も塗り重ねます。最後に木口を割れ・腐れ止めのために白く塗っていただきました。色々な方のご厚意で修繕できた築八十年のお寺の縁側、これからまた毎日磨いて、長持ちさせたいと思います。



きれいに修理していただいた縁側

お寺の掲示板より

優しくて

きれいな言葉と更にお

言葉は相手の心にも

自分の心にも

融れるものだから

永六輔

字・関 秀實

門徒の広場

門徒の広場はWEB版では
ご覧いただけません。

浄願寺の

永代供養墓

お墓の管理や、後継者に不安をお持ちの方へ。
永代供養墓への埋葬・改葬も選択肢の一つです。
浄願寺永代供養墓は車道に面したお参りのしやすいお墓です。
詳しくは浄願寺ホームページか住職までおたずねください。

編集後記

本年、四月十六日、本願寺の「伝灯奉告法要」に団体で参拝させていただきました。国宝の阿弥陀堂・御影堂には椅子席が設けられ、正座がづらい方も楽にお参りができます。書院・飛雲閣も一般公開されています。このようなご縁はめったにありません。福知山市内のご門徒様はもちろん、市外のご門徒様も、ぜひお誘いあわせいただき、一緒にお参りいたしましょう。詳しくは住職まで。

浄土真宗本願寺派
笹尾山 浄願寺

〒620-0925
福知山市上篠尾725
電話(0773)-22-5280
email jyouganjiweb@gmail.com
http://www.jyouganji.com

住職 関 秀法